

葛西壇遺跡現地説明会

北上市立埋蔵文化財センター

須恵器窯の調査

平成 29 年9月2日



【調査要項】

遺跡名	葛西壇（かさいだん）遺跡
所在地	北上市相去町葛西壇4-63
調査期間	平成 29 年5月 30 日～
調査目的	個人住宅建設
調査面積	260 m ²

葛西壇遺跡と周辺の土器生産遺跡 葛西壇遺跡は、新堤北側の東西に長い標高 92m ほどの舌状台地に立地しており、北側と南側は湿地になっている。周辺には相去遺跡、高前壇Ⅱ遺跡、南部工業団地内遺跡など、9世紀後半～10世紀後半に営まれた土器生産遺跡群が多数分布している。

岩手県内の須恵器窯と土師器生産遺跡 岩手県内の須恵器窯は 10ヶ所が知られており、葛西壇・高前壇Ⅱ・相去遺跡からなる相去窯跡群は、奥州市江刺区稲瀬に所在する瀬谷子窯跡群に次ぐ規模の須恵器生産地となっている。また、土師器を生産した遺跡は 20カ所ほど知られており、そのうち約 2/3 が北上市に、その他は奥州市～花巻市に分布している。これらことから、北上市を中心とする一帯が一大窯業生産地となっていたと考えられる。

今回の調査で検出した遺構 (図1) 須恵器を焼いた窯3基が見つかった(SY001・002・003)。SY001: 全長 4.0m、最大幅 1.3m、地面を掘り窪めた上に天井を構築した半地下式窯。焚口北側に 2.5×2.0m 程の掘込みを持つ。坏、甕、大甕などを焼成、複数回の補修により全長・幅が縮小。出土遺物などから、9世紀後半と考えられる。SY002: 全長 2.0m (現存値)、最大幅 0.8m (現存値)、窯底部のみ残存しており、詳細は不明。焚口北側に 1.5×1.0m 程の掘込みを持つ。SY003: 全長 2.3m (現存値)、最大幅 0.8m、地面を掘り窪めた上に天井を構築した半地下式窯。北半が調査区外となる。坏、甕、大甕などを焼成、補修痕跡なし。出土遺物から、9世紀後半と考えられる。

まとめ 須恵器窯の本格的な調査は、県内では隣接する相去遺跡以来、44年ぶりとなる。今回得られる窯構造・生産器種など様々な情報は今後重要な基礎資料となる。また、窯構造の系譜、生産した須恵器の流通範囲などを検討していく必要がある。

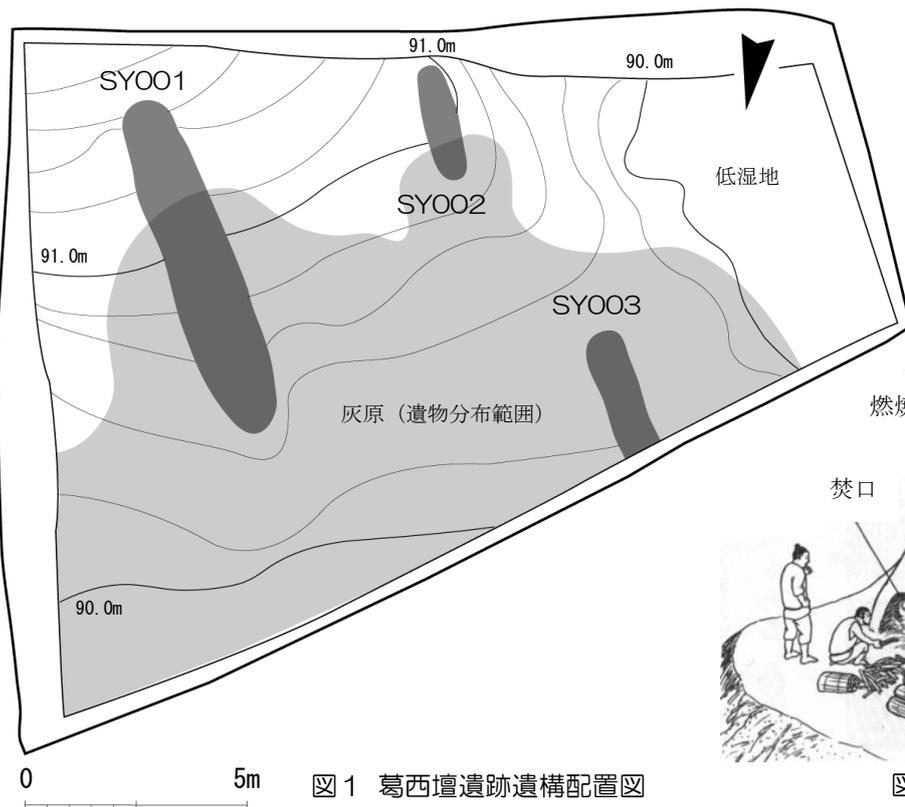


図1 葛西壇遺跡遺構配置図

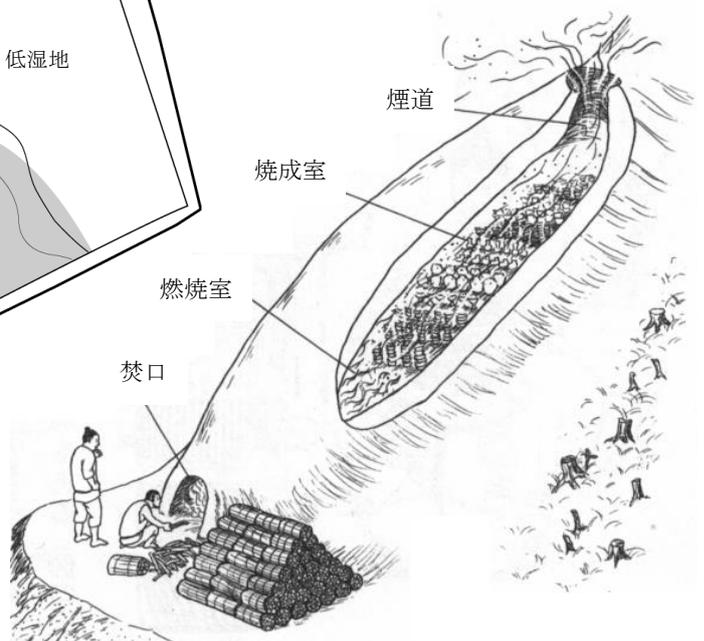


図2 須恵器窯の構造と部位名称



SY001 灰原遺物出土状況 (東から)

左：SY001 窯 (南から)

右：SY003 窯 (南から)

須恵器と土師器

須恵器：1,100 度前後で穴窯により数日間かけ焼成、灰白～青灰色で硬質の焼き上がり。5世紀頃朝鮮半島から日本に導入され、ロクロを使った成形技術や窯構築技術なども同時にもたらされた。

土師器：700 度前後で野焼きにより数時間かけ焼成、ベージュ～赤茶色でやや軟質の焼き上がり。弥生時代以来の稲藁を使った覆い焼きにより焼かれる。

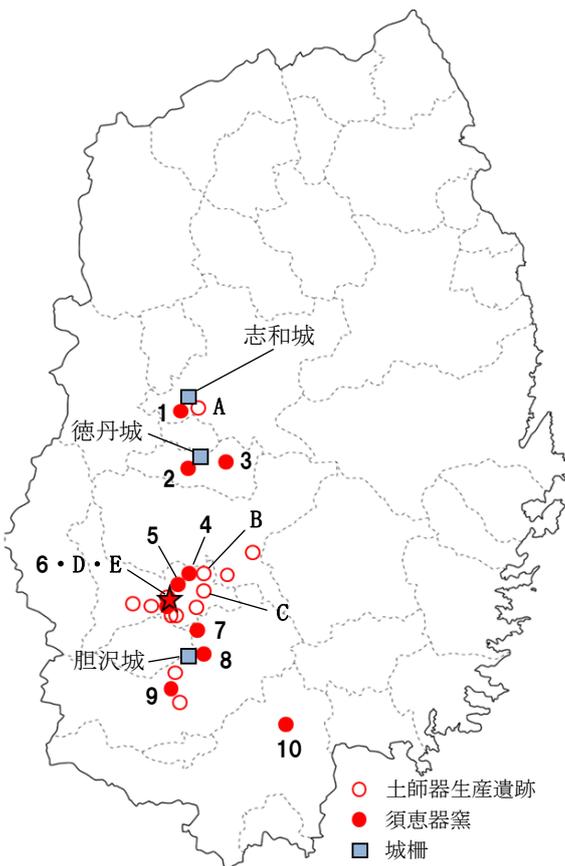


図3 岩手県内の須恵器窯と土師器生産遺跡



相去窯跡群で焼かれた須恵器大甕 (上大谷地遺跡)

岩手県内の須恵器窯と土師器生産遺跡 (図3)

須恵器窯： 1.木節窯跡、2.杉の上窯跡、3.星川窯跡、4.成田窯跡、5.藤沢窯跡、6.相去窯跡群 (葛西壇遺跡、相去遺跡、高前壇Ⅱ遺跡)、7.瀬谷子窯跡群、8.外浦洗田窯跡、9.見分森窯跡群、10.大馬場窯跡

土師器生産遺跡 (主なもの)： A.細谷地遺跡、B.千苺遺跡・中村遺跡、C.立花南遺跡、D.相去遺跡・高前壇Ⅱ遺跡、E.南部工業団地内遺跡

北上市立埋蔵文化財センター 平成 29 年度行事予定

埋蔵文化財写真展：昨年度・一昨年度の発掘速報展 平成 29 年 11 月中旬～1月中旬 ツインモールプラザりぼん橋

埋蔵文化財展：「北上の土器の歴史 (仮)」 平成 30 年 1 月 5 日 (金)～9 日 (火) さくらの百貨店北上店 3F 催事場

発掘調査報告会・講演会：平成 29 年度市内遺跡発掘調査報告・講演会 平成 30 年 1 月 6 日 (土) 日本現代詩歌文学館講堂